

絶句（杜甫）

江碧にして鳥逾白く

解説 杜甫、五十三歳の春に、浣花溪にある草堂で生活していたとき、去りゆく春を惜しみ、故郷に帰りたい思いを詠じたもの。

山青うして花然えんと欲す

語釈 ※絶句Ⅱ絶句は詩の体をいうのであり、したがってこの詩は無題と同じ。※江Ⅱここは成都の町を流れている岷江をさす。※碧：濃いみどり。※逮Ⅱいよいよ。ますます。※欲然Ⅱここは山の緑に映えて花の紅が燃えるように鮮やかなこと。※看Ⅱみるみるうちに。※帰年Ⅱ故郷に帰ることのできる年。

今春看又過ぐ

通釈 岷江の水は深いみどり色に澄み、そこに遊ぶ水鳥は益々白くみえる。山の木は緑に映え、花は燃え出さんばかりに真赤である。今年の春もみるみるうちに過ぎ去ってしまおうとしている。一体、何時になつたら故郷に帰れる時がやってくるのであろうか。

何れの日か是れ帰年ならん

江碧鳥逾白 山青花欲然  
今春看又過 何日是歸年